

令和 6 年度第 2 回デジタル地域通貨利用促進委員会会議録

【資料 6】

1. 開催日時
令和 6 年 8 月 27 日（火） 10 時～ 12 時
2. 開催場所
名取市役所議会棟 3 階第 1・2 委員会室
3. 出席者
宮崎委員、熊谷委員、来栖委員、松野委員、赤間委員、千葉委員、佐藤委員、小平委員、小畑委員
4. 欠席者
なし
5. 出席者
(委員長要請による出席者)
(株)NTT カードソリューション：川原崎課長、興野大将、
NTT 東日本(株)：村田顕生、久保課長、原田駿一（リモート）菅原史明
名取市商工会：渡邊課長、菊地主事
名取市商工観光課：松浦主幹
(事務局)
DX 推進室 成田室長、新開室長補佐、菅原主査、今野主査、伊藤主事
6. 傍聴者
0 名
7. 傍聴者の報告及び会議の記録方法の確認
 - ・本委員会は公開対象とし、本日の傍聴者は 0 名。
 - ・委員名記載の要点筆記で後日公開することを報告。
8. 宮崎委員長あいさつ
 - ・ 8/1 から本格開始。利用状況、利用促進についてアイディア、意見をいただきたい。
9. 議事内容
 - (1) なとりコインの利用実績について …【資料 1】【資料 1-2】
 - (2) なとりコインの利用促進キャンペーンの申込状況について…【資料 2】
 - (3) なとりコインのモニターアンケート結果について …【資料 3】
 - (4) 今後の利用促進に向けた情報交換について

◇なとりコインの利用実績 (事務局)

- ・ 令和 6 年度の目標決済金額 600 万円に対し、1.74%の進捗
- ・ 決済件数は小売店 87 件、決済単価（平均 6,937 円）は飲食が多い。増田地区が TOP、イ

オンモールはじめ大企業多いのと、本庁舎のスマートストアで利用されている。

◇なとりコインのキャンペーン申込状況

(事務局)

- ・当選本数 255 本に対して応募は 86 本。認知度不足とクレジットカードチャージ不能（カード会社のセキュリティチェック）が原因と想定。他社カード利用や本人からカード会社へ不正利用ではない旨の申告をいただくよう HP で周知している。
- ・キャンペーンは 73%が 5,000 円以上の高額チャージに誘導できており、一定の効果があつた。キャンペーンを継続することでロコミ等での拡大を期待。
- ・チャージ額の 25%程度しか決済されていないので、いかに使ってもらうかが課題。

◆質疑応答等

(委員長)

目標決済金額 600 万円の根拠は？

(事務局)

- ・長井市を参考にした。1 年間の実績が 140 万円ときいている。それを人口で割り戻し（長井市は 2 万 6,000 人）で計算（名取市 7 万 9,000 人）し、目標値を含めて設定した。

(委員長)

- ・おまかせ e マネーの仕組みは長井市を参考にしてている。

(委 員)

- ・チャージ件数は人数と同じ？

(事務局)

- ・延べのチャージ件数になっているので、同じ人が複数回チャージしても含まれている。

(委 員)

- ・人数は押さえていないか？

(事務局)

- ・押さえていない。取ることはできる。

(委員長)

次回以降は人数を取って欲しい。チャージ者の属性は取れる？

(事務局)

- ・属性は取れていない。市の職員のチャージが一定を占めている感覚。

(委員長)

- ・市職員には周知されている、市民に広げていく必要ある。キャンペーンの宣伝方法は？

(事務局)

- ・店舗掲示、チラシ配布、市 HP、ナトぼたでの周知、マスコミ各社へのプレスリリース。

(委員長)

- ・認知度向上、SNS なども含めてキャンペーンをどう打っていくかのアイディアを後ほどいただければ。クレカの件、不具合何件？原因は？

(事務局)

- ・チャージができない問い合わせは 2 件。市職員もチャージができない事象が発生。傾向としてはカード会社によりセキュリティ基準が違う。全てにチェック入るケース（チャージできない）、全くチェックが入らないケース（チャージできた）がある。利益誘導などもあるのでどの会社などとは言えない。

(委員長)

- ・市民向けにこのクレジットカード会社は使えないということは示してもよいのではない
か。NTCS からも伺いたい。

(委 員)

- ・資料 2 のキャンペーン。9 月以降も継続するのか？8/31 で一旦整理し、残った予算でキ
ャンペーンを継続するのか？

(事務局)

- ・どのようなキャンペーンを実施すると効果があるか検討している。1 か月という区切り
を設けて口コミで広がることを狙うなど、考えている。

(委員長)

- ・他の地域でもやっていて効果はある。歳末などの時期を狙うなど。検討の材料とした
い。

◇なとりコインモニターアンケート分析結果

(委員長)

- ・クロス集計、t 検定で平均値の差の有無をチェック。
- ・クロス集計、世代別の参加形態（アプリ、カード）、地域通貨知っているか、申し込み
の手続き行政ポイントの参加。世代ごとに差が出ている。
- ・20 代以下、30～50 代、60 代以上で分けている。不慣れな世代の活用。アプリかカード
かについては 20 代以下は子供たちがスマホ持っていない人がいるのでカード少し高くな
っていると想定。60 代以上はカードが多い。
- ・地域通貨の認知度は世代ごとに差が出ている。20 代以下、60 代以上。
- ・申込、決済手続きの難しさ。20 代以下は簡単、60 代以上は難しいが多い。
- ・行政ポイントも若い世代は積極的。60 代以上は少な目。
- ・t 検定：申請、決済手続きの難易度。若干の差だが、若い世代と高齢者で難しさの差が
出ている。その辺のサポートをどうするか。スマホ教室など。
- ・生活満足度。暮らしやすさなどを定点観測していくと追跡できると思う。今後の流通状
況と兼ね合わせて分析したい。若い世代の方が満足度が高い。60 歳以上はやや不満度
がある。でも日本の平均値よりは高い。

◆質疑応答等

(委 員)

- ・アンケート回答者はなとりコイン使った人？

(委員長)

- ・実証期間中に使った人。一部使っていない人もいたみたいだが。

(委 員)

- ・「とても難しい」も使えた人？

(委員長)

- ・カードにしたり、市役所の方が丁寧に説明して結果は使えている。

(委 員)

- ・あきらめた人が気になる

(委員長)

- ・2～3 人はあきらめたと思われるコメントがあった。1,600 人（使っていただいた、か
つ、アンケートを答えてくれた方）なので、その中で課題を抱えている人はいるかと思
う。

◇今後の利用促進に向けた情報交換

(NTT 東日本)

- ・利用促進、チャージ施策、プロモーション、認知。使ってもらうためのいろんなフェーズがあると思う。
- ・利用者と加盟店のどちらを先に増やしていくかという場合に、加盟店が多いところで使いたいと思ってもらえるのが自然。スタートしたばかりだが、加盟店に地域通貨の意義などを理解していただき、国の財源もあればプレミアム商品券もできて、使われるようになると思う。
- ・加盟店にとってキャッシュレスの導入は一定の負担がある。習熟してもらうハードルはある。なとりコインを導入すれば儲かるという話ならよいが、PayPay に勝てることは絶対にない。その中でなぜ、なとりコインを導入するのかは、損得を超えた、名取市への愛着、シビックプライドなどにつながる、それがなとりコインなんだと、そういう意義を理解いただきながら加盟店にも盛り上げてもらいたい。
- ・市の経済活性化、ウェルビーイングなど、地域に愛されるコインを作ることで、まちづくりにつなげていくことが必要と思う。加盟店とビジョンを共有したい。加盟店に伝える場を作ってもらいたい。最初の加盟店説明会（操作方法）では、なぜこの事業をしているのかということを説明する機会がなかった。

◆質疑応答等

(委員長)

- ・先行していた長井市には同じ課題がある？その辺の知見があれば。

(NTT 東日本)

- ・長井市は 2022 年 5 月からスタートした。コロナ禍だったので、国費を使って、給付をある程度やっていた。現金より先に使おうという意図が働いたところはあったと思う。

(委員長)

- ・長井市は QR カードを住民全員に配ったということもあったと思う。それにプレミアム商品券事業などもやっていたので、流通金額が億単位になっていった。3 月に聞いたときはチャージには苦戦していると聞いた。現在の名取市と同じ状況になっているのかもしれない。

(委 員)

- ・キャンペーンの告知についてのポスターは確認していない。加盟店にポスターがあることが一番だが、実際に配布したのか。店舗への掲示も拝見していないので、分かりやすく掲示してくれているのかななどを回答いただきたい。「なぜ実施するのか」、「役割があるのか」を店が良く知っておく、ということはかわまちテラスのテナントを見ても、認識されていないと思う。

(事務局)

- ・ポスターの配布、店舗ごとの個別状況は把握できていない。かわまちテラスは、加盟店とそうでない店があったので、店ごとに声をかけさせてもらった。ポスター掲示は商工会さんから話をしてもらった。

(商工会)

- ・キャンペーンの内容などは話をさせてもらった。モニターの時と変わらず、はじまるのかなという認識があったと思うので、名取市も含めて盛り上げていけたらと思う。

(委員長)

- ・モニターで盛り上げたが、本格流通では広報に挟んだりもしていないので、「始まっているの？」というのがあった。次のタイミングで加盟店も含めて、チラシの撒き方含めて工夫しては。市役所からの説明等、今後どう広げていきたいなどの説明会の予定はないのか。

(事務局)

- ・現在のところ、具体的な計画はないが、加盟店へのストーリーなど不足しているという指摘があったので、商工会と相談しながら対応をしていきたい。

(委員長)

- ・加盟店を増やすために、できるだけ早い段階でやっていくことが大事だと思うので、いろんな勉強会などをやっていくといいのではと思っている。エリア問わず。検討をお願いしたい。

(委員)

- ・長井市は、導入前から、受け入れやすいなにか素地があるのか。

(NTT 東日本)

- ・長井市は人口が名取市の半分以下。国の補助金でスマートシティをやっていた。事業を同時並行でやっていくところで色を出していた、デジタルを使っていくまちづくりをしようというところは浸透しやすかったと思う。高齢者が使うのも簡単というのもアピールできた。

(委員長)

- ・スマホにこだわらず、QR カード先行ですすめた。使えるようになればスマホにという人もいるし。名取市はコスト面もあり、スマホから誘導していったところもある。周知するキャンペーンやイベントもやっていいと思う、紙も残っている。

(委員)

- ・携帯屋のスマホデビューの話あったが、加盟店を増やすためにもいいことだと思った。はなもも券で期限切れたものは、準備金、引当金でためておいたが、今回はデジタルというのもあり、スパッと切れるので、その金額余った分は何かに使えないのか。余ったお金で付与事業など活性化事業などできるといいのでは。

(委員長)

- ・歳末の売り出しの件、市役所や商工会などで検討しているか

(商工会)

- ・商業部会が今度あり、そこで揉む。なとりコインと去年の歳末の店が一致しないので、加盟店を増やすために QR カードを使ってできないかという話をしていた。

(委員長)

- ・QR をきっかけに加盟店を増やしていく。QR の場合、仕組みを理解してもらう必要がある。その機会が必要になってくる。地域通貨の理解促進を話してもらえるといい。期限切れの件は市としてどう考えるか？

(事務局)

- ・有効期限は R10. 3. 31 になっているので、それが切れたら市に返してもらうことになっているが、その使い道はまだ決まっていない。最低 2 年という仕様になっていた。

(委員長)

- ・他の地域では地域ポイントなどをやっているが、2～4 割が使われずに終わっている。それを活用しているのが、サイモンズがやっている気仙沼クルーカード。地域の子育て事業に充ててみるなどでうまく転用して行くようなことを検討していく必要がある。期限切れの活用。

(委員)

- ・期限切れの転用について、チャージして失効させたもの？

(委員長)

- ・いま話した事例はポイントの話。店舗が負担した話。

(委員)

- ・先ほど話したのは、はなもも券をタンスに入れっぱなしで失効させた場合の話だった。
(委員長)
- ・なとりコインは期限がまだ先の話だが、考えていく必要はある。

(委員)

- ・キャンペーンの件は、クレジットカードからチャージできないのも原因としてあると思う。商工会からカードを買ってもらってチャージする方法もあるが、クレジットカードからチャージできないのは問題だと思うので、全国展開する中で同じような事例をカードソリューションが把握していると思うので、対応策や事例など教えてほしい。

(NTTCS)

- ・クレジットカードからのチャージの件は社会問題になっている。属性やその人が何を買おうとしたかや、VISA でもいろんな VISA で状況が違う。3D セキュアに対応していないカードでは買えないなどもあるので、これは市 HP で周知してほしい。クレジットカード会社も AI でやっているようで今日買えても明日は買えなくなるような状況もある。3D セキュアに対応していない人向けの対応策やコンビニチャージしてもらう方法もらうなどを名取市様に紹介して検討いただくことになっている。

(委員)

- ・3D セキュア入れてれば通る？

(NTTCS)

- ・入れてないとまず通らない。が、必ずではない。前提条件ではある。

(委員長)

- ・セキュリティの部分はたちごっこになっている。キャンペーンのスタートでのつまずきは厳しいので、早い段階での対応は必要になってくると思う。コンビニチャージや QR カードを使うなどの対応。ちなみに自分は通常にクレジットカードでチャージ出来た。慣れている人はすぐできる、そうでない人と極端になっている。その辺を解消できる方法を系統的なところもあるが要検討だと思う。

(委員)

- ・外の方と関わり合いがあるタイミングでなかった。聞いていきたい。のぼり旗を立てているお店を見かけた、なとりコインというものを認識してもらう必要があると思う。のぼりは効果があると思うが、どこにどのくらいやっているか教えて欲しい。

(商工会)

- ・商工会で旗を保管していて、事業者皆様に欲しい人は言って、といったが、まだ数に余裕がある。1～2枚であれば届けるので、ぜひ言ってほしい。

(委員長)

- ・他の地域でものぼり旗があり、外から来た人にも知られるきっかけになる。行かなかったお店に行くきっかけづくりになるのでは。周知活動が必要になると思う。

(委員)

- ・登録店舗数の進捗、登録者数の推移、その内訳（市内外）は？

(事務局)

- ・推移はまだとらえられていないが、総数はある。加盟店は 144 店舗。ユーザ数は 2,262 名。8 月 15 日までのデータ。市内の方は 1,966 名、市外の方は 296 名。

(委員長)

- ・イオンモールの参加で加盟店が増えたと思うが、周知したか。

(事務局)

- ・本格運用の前に、市長から記者会見で伝えた。

(委員長)

- ・積極的に伝えるべき。利用者や加盟店参加のきっかけになると思う。市長のプレスリリースだけだと限られる。いろいろなところですこずつ発信していくことが必要だと思う。ポータルサイトもだが。他の地域通貨の事例だと、加盟店でインスタグラムを立ち上げている例もある。検討・工夫してみる必要がある。

(委員)

- ・行政ポイントの参加、若い人が参加したいというのが意外。なとりコインの周知をそこを使っていくべきでは。せっかくもらったから使ってみようというのもあるのでは。500円、1000円、もらったポイントなのではという金額。決済金額、もらったポイントを使ったのではと思う。もらったので使ってみようというところから広がっていくのでは。イオンモールの従業員も含めて子育て世代、地域のボランティアに参加してうちの店で使えないのか、みたいな話もあるのでは。ボランティアなどで使えるというのがいいのではないかと思った。

(委員長)

- ・行政ポイントは若者の参加を促す施策としてはマッチするものと思うが、配布はまだしていない？

(事務局)

- ・行政ポイントの一環で、ナトぼたをダウンロードした方に500円プレゼントするキャンペーンをやっている。千葉さんの500円、それで使われていると思う。

(委員長)

- ・500ポイント分の配布、もう終わった？

(事務局)

- ・年度通しでやっている。

(委員長)

- ・広くいろんな人に使ってもらう。自分が行くお店で使えないと「なんで使えないの」ってユーザー側からの話があれば、ネットワークの広がりがあると思う。楽しむというか、知らなかったお店どうしのネットワークづくりも地域通貨の良さだと思う。行政ポイント活用というのはあると思う。行政ポイントの進捗は？

(事務局)

- ・各課に照会して取りまとめているところ

(委員長)

- ・早めに使えるようにしてもらいたい。9月になるので。

(委員)

- ・600万円ですごいじゃないですか、どうしたらいいかなと。チャージ件数、チャージいいところ1,000円とか3,000円だと思う。2万円は押し売り（笑）。どう増やすのかというところ、飲食店でチャージしてもらわないとそこまでいかないと思う。7,000円だとしらふだと7,000円チャージするが、酔っぱらうと1万円チャージする。居酒屋だと勘定が緩くなる。スナックとかで払うのはカードだと嫌がられる。なとりコインで払えば中身がよくわからない、みたいな。使われる仕組み作りをしていく必要がある。

(委員長)

- ・飲食店は加盟店舗数としてはそんなに多くない？飲み屋が多くない。かわまちテラスがあるくらい。10何店舗あるくらい。愛島の中華料理屋とか。イオンモールもあるが、客単価が高いところを広げていくのも一つの戦略だと思う。暑気払いで使われている感じもする。今後12月の送別会などあると思うので、定常的に使ってもらうため、行政ポイ

ントも含めて利用を増やしていく必要があると思う。9月、10月に向けて今後考える必要がある。

(委員)

- ・かわまちテラスもそうですし、イオンモールもだが、来場されるお客様の属性、近県で8〜9割。仙台市が多くを占めていて、リピーター率が高いと思う。600万円、仙台市の方に登録を進めてもらう必要があるが、広報が届かない、市の広報では。ぜひそこをターゲットに入れて、広報してほしい。

(委員長)

- ・仙台市に周知する方法は何かあるか。

(事務局)

- ・今は手段がないので、関係者と相談して検討していきたい

(委員長)

- ・仙台市民が集まってくるところ、かわまちてらすなどで周知する活動。早め早めに検討していただければ。

(委員)

- ・まず、なぜこの施策をするのかを理解してもらう必要があるのはその通りだ。市が発信するのは、広報やHPくらい。事業者からすると、こういうところにアピール打って行くといいんだよとか、飲食店でテーブルにPOPでLINE登録したら一品サービスみたいな地道に広げる営みをやっていけたら。事業者側からこういうことなら手伝いたいというのをぜひ言っていただければ。歳末大売り出しキャンペーンのようなもの。

(委員長)

- ・アイディアを思いついたら、投げられる場所があればいい。気づいたときにメモ程度に入れて、こういう時に使ってもらえそう、この店が協力してくれそうなど、そういう情報が入ってくる場を作るのもありだと思う。

(委員)

- ・特定の店舗だけでキャンペーンできないか、メーターが上がっていくなど。MIXフェスタ等、イベントもあるといいかも。

(委員長)

- ・個別店舗だと利益誘導につながるから、というのはあると思うが、思い出の場所とのコラボなどもアリだと思う。行政ポイントもイベントで使える場所を増やす必要がある。アイディアを引き続きいただけると良い。

(NTT 東日本)

- ・お店単位だとやりにくいですが、居酒屋さんなどジャンルでなら、やってもいいのでは。今回はチャージのデータを追っているが、決済側で抽選をかけることはできる。忘年会、飲食店等テーマ性を持たせて絞ればいいのでは。チャージじゃなくて消費を抽選の対象にできれば、いいと思う。インスタグラムやX等をやっているお店は多いと思うので、そこで情報発信してもらう。そのための素材（画像等）は市や商工会が用意するなどができれば市の広報以外にも事業者にもやってもらえる。

(委員長)

- ・店舗連携、飲み歩きというのもあると思う。かわまちてらすなどを回ってもらうキャンペーンなども。実際やってみて利用状況を検証をして、そういうのを追えるのがデジタルのいいところ、そういうのを活用して流通促進できればと思う。

◇その他

(事務局)

- ・ 次回のスケジュール、第3回は9/27(金)10:00 からを予定している。

10. 閉 会

(参考)

●決定事項

- ・ 次回以降はチャージの件数に加えて、「人数」も提示する。

●検討事項

- ・ 加盟店を増やすための動機づけ、勉強会など
- ・ 有効期限が切れた分の扱い
- ・ クレジットカードでのチャージ不能への対応(周知方法、コンビニチャージなどの代替案)
- ・ 飲食店など客単価が高い加盟店への対応
- ・ 仙台市民への周知、PR 方法
- ・ 利用促進などのアイデアを登録する場、仕組み